

## ◆新刊紹介

武生市医師会一〇〇年史 武生市医師会一〇〇年史編纂委員会編 武生市医師会発行 昭和六十三年三月 A5判 六五四・一三頁 図八 販売価格三、〇〇〇円

本書は、「武生市医師会一〇〇年史」と銘打つてはいるが、地域の医学発展の歴史過程をふまえての編さん書であるだけに、きわめて多面的でしかも高度な内容構成をみてとることができ、全体を二編に大別し、第一編「武生市医師会一〇〇年のあゆみ」と第二編「資料編」に大別する。第一編は七章からなり、まず序章「明治二〇年以前の武生の医師の活動」では、地域の古代にまで遡って説き起

し、中・近世からさらに明治前期のさまざまな注目すべき活動を明らかにする。

次に、第一章「明治後期の武生の医師会」第二章「大正期の南条郡医師会」第三章「昭和前期の南条郡医師会」第四章「終戦後の武生市医師会」第五章「昭和四十二年以後の武生市医師会」第六章「産婆・看護婦養成機関の沿革」第七章「学校医・学校医会などの沿革」の順に、地域の社会情勢を背景とする医学発展との関連に視点をすえて、医師会活動の歴史過程を詳述する。第二編は、会則・規則・会員一覧など諸資料や関係年表を掲げる。実はこの一世紀のあゆみのなかで、たび重なる医療制度や法令の制定・改廃に敏感に対応して、地域住民への医療供給はもちろん学校保健・母子保健・各種の検診・保健事業に果たした業績に精いっぱい照明をあてる。さらに福井空襲・震災やバス転落事故などの救急医療、とりわけ昭和四十七年十一月の北陸トンネル列車火災救援と医療活動は、医師会の総力をあげたものであるだけに、読者にいたく深い感銘を与えるであろう。

本書は編さん委員会（委員長 奥村誠氏）

齋藤 県内の芭蕉碑とその地の俳諧史 (四)

の委員二一名が担当し、特に齋藤嘉造氏が中心となり、市や県の医師会所蔵資料はじめ関係諸資料を調査・収集し、約二年余の歳月を費して完成した一大労作であり、ぜひ一読をお勧めしたい。(三上二夫記)